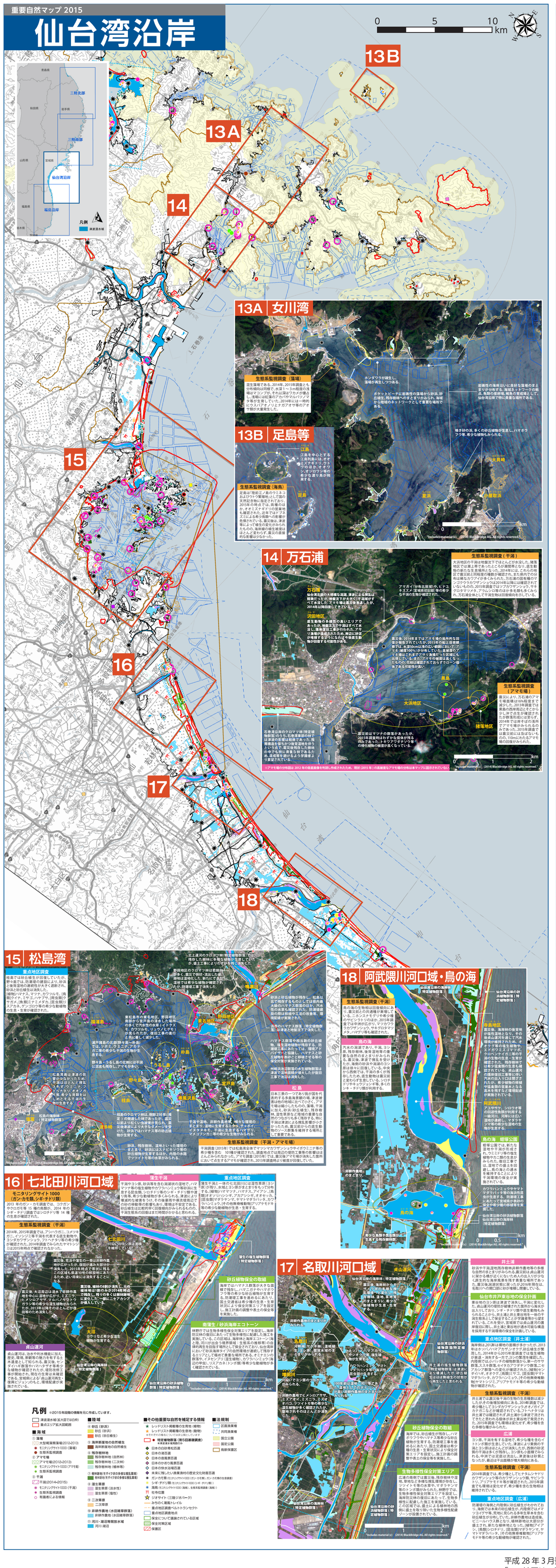
重要自然マップ 2015

仙台湾沿岸

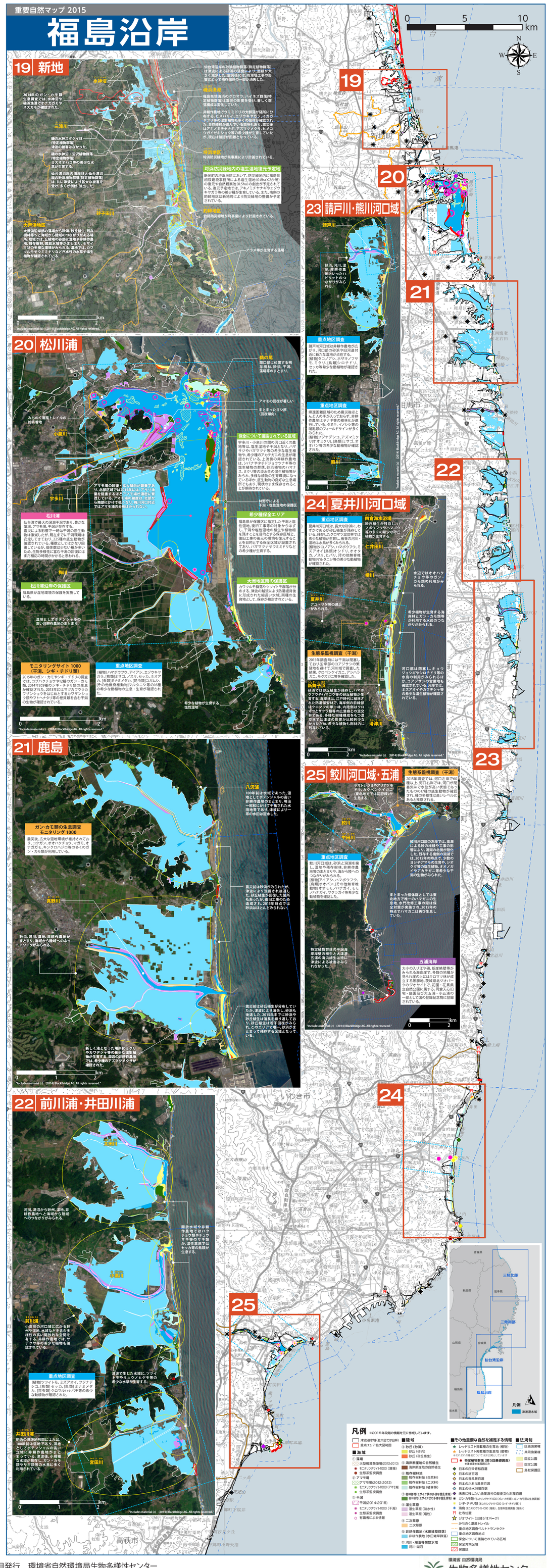

13B
13A
14
15
16
17
18
0 5 10 km
13A 女川湾
生態系監視調査（藻場）
ホンダワラが確生し、藻場が再生しつつある。
ポケットビーチに岩礁性の藻場から砂浜、砂丘植生、残存樹林への まとまりがあられ、海域から陸域のネットワークとして重要な場所である。
岩礁性の海岸沿いに良好な藻場のまとまりが分布する。海域ネットワークの観点、魚類の産卵場、稚魚の育成場として、仙台湾沿岸で特に貴重な場所である。
13B 足島等
生態系監視調査（海鳥）
足島は「陸前江ノ島のウミネコおよびカワウ繁殖地」として国の天然記念物に指定されており、2015年の時点では、鳥種のほか、オオミズナギドリの営巣地も確認され、近年ではアブラズミにによる希少鳥類への影響が危惧されている。震災後は、津波等によって植生が変化がみられたものの、海岸線の植生被覆はほとんど残らず、高潮改善策的な影響は少なかった。
14 万石浦
生態系監視調査（干潟）
大浜地区の干潟は地盤沈下であらんとが水没した。被害地区では潮上帯であったところが潮間帯となり、底生動物の新たな生息場所となった。2014年には、これらの地区で震災後と同程度の個数が確認され、また鳥内でのカモは稀なカワアイサ多くみられた。万石浦の回有種のマシジウウラカワザンショウは2014年以降には確認されていないものの、2015年調査ではツブカワザンショウ、サキ
万石浦
仙台湾北部の大規模な潟湖。津波による被害は軽微だったが、地盤沈下が大きく干潟はかすべて水没した。アマモ場は再生開始直後したが、2014年以降回復してきている。
沢田地区
底生動物の多様性の高いエリアであったが、地盤沈下干潟はすべて水没し、護岸復旧工事が行われた。アサリ漁場が造成されたため、海辺に砂浜が地盤するようになれば今度底生動物が回復する可能性がある。
震災後、2014年までではアマモ場の局所的な回復が報告されていたが、2015年の船上目視観察では、水深50m以浅の広い範囲において アマモ（被度100%）が分布していた。高被度のアマモ場はこれまでアサリ漁場だった区域にも出現している。また、アマモの被度は高くなったものの、花枝は確認されておらずクローン個体である可能性が高い。
アマガイ（分布北限域）や、ヒナタ ヘスズメ（宮城県初記録）等の希少な干潟の生物が確認された。
生態系監視調査（アマモ場）
震災により、万石浦のアマモ場面積は50%程度まで減少した。2013年調査では高潮の西岸部及びそこから少し沖で点生が確認されたが群落形成には至らず、2014年では岸そばの浅所でアマモ場がみられるのみであった。2015年調査では震災前には及ばないものの、110mにわたるアマモ場の回復がみられた。
鹿島
大浜地区
縫落地区
震災前はマツナの群落があったが、2015年調査時はわずかな個体が残るのみであった。トキワアワダチソウ等の帰化植物の被度が高くなっている。
石巻湾沿岸のクロマツ林（特定植物群落）のうち、石巻湾東部の林では津波の影響は軽微であった。陸域後背を張ちかつ海岸湾地を伴うという点で、震災後残存した樹林の中でも特に貴重な林であるため、温成環を図れるよう学識者より提案されている。
※アマモ場の分布図は 2012 年の衛星画像を判読し作成されたため、現状（2015 年）の高被度なアマモ場の分布はきマップに図示されていない
15 松島湾
重点地区調査
桂島では砂石採掘を回避していたが、野々島では、防潮堤の建設により、砂浜と後背湿地の連続性が大きく遮断され、砂浜と砂丘植生消滅した。
[植物]ハマサス、マツナ、カワツルモ、[鳥類]ウイチ、ミサゴ、ハヤブサ、[底生類]ウサガメ、[魚類]ミナミメダカ、[昆虫類]ツスジカネ、ダンゴロウ等の希少な動植物の生息・生育が確認された。
北上運河のクロマツ林（特定植物群落）では、残存した樹林に多種な植物が生育していたが、盛土工事により2/3が失われ消失した。
野蒜地区のクロマツ林は若樹林が多く、震災で倒伏・流出した後、跡地は造地化した。新たに定着した湿地では希少な植物が確認されたが、防潮堤工事で消失した。
東松島市の東名地区、野蒜地区南部から宮戸島の湾水とした場所の多くで汽水性のヨシ原（イトクズモ、カワツルモ、リュウノメガモ）が見られたが、復旧工事の進行と共に著しく減少した。
瀬戸諸島の北部（野々島～桂島）では、シボミミクリ、ミニチ、アカガニ等の希少な干潟の生物が生息する。
野々島・うるし島の北側には干潟に泥質も残存し、アマモが多い。
松島湾島は津波の影響が少なかったため、干潟は ほとんど消失しておらず、ウミニナ、ホソウミニナ、ヤマトオサガニ、ヤ等、希少な貝類をはじめとする干潟の生物が生息する。
桂島のクロマツ林は、樹齢250年（推定）の神聖にした林であったが、震災以前より松くい虫被害が見られ、震災後津波により大きなダメージを受けた。砂浜では1ヤマトスズ等の砂丘植物が生育する。
干潟や湿地、非耕作農地、畔々な環境のまとまり、湿地に生息するニホンヒメ、チャボイ、イタダキ等に、干潟に生息するハマグリ、マメコブシガニ等の希少な生物がみられる。
砂浜、残存樹林、湿地といった環境のまとまり、砂浜にはスナビキソウ等の砂丘植物が生育するほか、内陸の水路でマツイトモ等の水草がみられる。
Includes material (c) (2014) Blackbridge AG. All rights reserved.
16 七北田川河口域
モニタリングサイト 1000（カンカ鳥、シギ・チドリ類）
2013 年のカン・カモ類調査では、コクガンやロカリモ等 15 種の鳥類が、2014 年のシギ・チドリ調査ではシロチドリ等 14 種の生息が確認された。
生態系監視調査（干潟）
2014年、2015年調査では、アシハラガニ、ユメシキガニ、イソシジミ等干潟を代表する底生動物や、ヨシタカリツツ、フトヘナタリ等の希少種が確認された。2014年調査でみられたヤマトシジミは2015年時点で確認されなかった。
七北田川
川辺にのヨシ原は面積を維持している。
震災後、大沼周辺は津水で非耕作農地を中心に湿地が広がり、ミズニ、ヒメタロウサザ、マルバハザトウ、ガラン等の希少な湿生植物がみられたが、2013年以降その1ほとんどが復田等のため消失した。
震災後、植林の影響が消失し、元の植林地は跡のみ2014年時点で残存し、残りの多くは樹林地に変化した。一部にヨモギカンアが侵入している。
湿生の塩生植物群落（特定植物群落）
大沼
ミクリなど希少な湿生植物が生育する。
貞山運河
貞山運河は、治水や利水機能に加え、歴史、環境、景観等の魅力を有する土木遺産として知られる。震災後、センダイハギ群落やハマハタザ等希少な植物が確認されたが、堤防改修工事が開始され、現在の生育は未確認である。宮城県による「貞山運河再生・復興イジョン」のもと、環境配慮が実施されている。
砂丘植物保全の取組
海岸ではハママツ群落が大きな面積で残存し、ハマエンドウ等の希少な砂丘植物が生育する。防潮堤工事を進めるにあたり、汽水性の水草も確認された。防潮堤建設の際は移植や工法の改善等、環境配慮が実施された。
南蒲生／砂浜海岸エコトーン
林野庁では生物多様性保全対策エリアを設定し、海岸防災林の復旧にあたって生物多様性に配慮した施工を実施している。この区域は、海岸林と海岸エコトーンを陸、河川が出会う境界領域：生態系の推移帯）の自律的再生を目指す場所として保全されており、仙台湾沿岸における砂浜海岸タイプの自然環境が連続して残存するエリアとして極めて貴重な場所である。オミナエシの群落や、イヌセンブリ（湿生植物）、カワラハンミョウ（海辺の甲虫）、リスアカネ（トンボ類）等希少な動植物が多く確認されている。
Includes material (c) (2014) Blackbridge AG. All rights reserved.
17 名取川河口域
名取川
河川（ヤナギ林）、湿地植生（ヨシ原）、開放水域の王道をリがみられる。
増田川
河川にてヨシ原のつながりがみられる。
非耕作農地のまとまりがみられる。
ホソバノハマアカザ、ヤシオカクワ等の湿生植物が生育する。
カワラハンミョウ、ヤマトママダラバッタ等の海浜性昆虫類が生育する。
100年前は湿地や河川であった場所は現在の名取川の河口部の干潟や高い非耕作農地のまとまりがみられる。
井土浦
砂浜や干潟湿地残存樹林非耕作農地等の多様な自然のまとまりがみられる。震災前は貞山運河に隣接の樹林が点在していた。内陸の山地から海水が流入し、ヨシ原、ヨシ群落、ヨシ原を含む多様性の高い湿地が出現した。震災後、海岸林が失われ、砂丘植生が回復した箇所も見られたが、復旧工事のため造成されて、2015年時点では砂浜はほとんどみられない。
仙台市井戸東谷地の保全計画
東谷地のヨシ原は津波で消失し、干潟に変化した。貞山運河の堤防が破壊された箇所から海水が流入し、ヨシ・チドリ類や底生動物もみられることから、井土浦と井土東谷地を一体の干潟生態系として保全することが学識者等から望まれている。これを受け、宮城県では貞山運河の護岸復旧に際し、井土浦と東谷地が通水可能な構造を採用する干潟環境の保全を計画している。
重点地区調査（井土浦）
海岸側は2012年は環境の面積が多かったが、2013年はホソバノハマアカザ、ソオカグ、砂丘植生が繁茂した。2014年から2015年度調査では湿生植物が衰退・消失する一方で、コシの繁茂を確認した。内陸側ではハッチの植物群落から、単一のウキザ群落、ススキ群落、セイタカアワダチソウ群落、ニセアカシア群落への変化が確認された。[植物]センダハギ、オオクグ、[鳥類]ミサゴ、[昆虫類]ヤマトマダラバッタ、カワラハンミョウ、[その他無脊椎動物]ヤマトシジミ、アリアケヒモキ等の希少な動植物が確認された。
生態系監視調査（干潟）
井土浦では震災後干潟の生物の生息種数は減少したがその後増加傾向にある。2014年調査では、希少種としてヨシダカワザンショウオオノガイアカチガニなどが確認されている。フトヘナタリは井土浦では確認されず井土浦から津波で流されてきたと思われる個体が井土東谷地で発見された。2015年調査でも、個体は変化せず、希少種を含む多種な種がみられた。
広浦
ヨシ原、干潟を有する湿地で、希少な種を含むイトトンボ類が生息していた。津波により景観の干潟と ヨシ原はほとんどが消失したが、西側の砂泥の干潟は多くが残存し、ヨシ原もハ面積ではあるが、中洲では泥底は流出し、津波後は砂質となったが、最近は干出面積が増大傾向にある。
生態系監視調査（干潟）
2014年調査では、希少種としてヒナタムシヤドリカワザンショウ等のカワザンショウ類、サビシラトリ、アリアケヒモキ等が確認された。2015年調査でも環境は変化せず、希少種を含む生物は維持されている。
重点地区調査（広浦）
防潮堤の海側と内陸側に砂丘植生がかなわれており、海側では本来の砂丘植生が、内陸側ではメマツヨイグサ等、荒地に見られる多種生草本を含む砂丘植生が分布していた。非耕作農地は造成後、ビニールハウス群となり、植林跡地は大部分が盛土され、新たな樹林地となった。[植物]アイアシ、[鳥類]ノビタキ、[昆虫類]マダラヤンマ、ヤマトマダラバッタ、[その他無脊椎動物]アリアケモドキ等の希少な動植物が確認された。
砂丘植物保全の取組
海岸では、砂丘植生が残存し、ハマボウフウやハマエンドウ等希少な砂丘植物が生育する。防潮堤工事を進めるにあたり、国土交通省は希少種の生息・生育状況により保全対策エリアを設定し、施工計画の調整や表土の保全等を実施した。
生物多様性保全対策エリア
広浦の南側では最災後、残存樹林や湿地、草地など多種な開放環境が存在し、ツバイモ等の水草や、マダラヤンマ等のトンボ類がみられた。林野庁では、生物多様性保全対策エリアを設定し、海岸防災林の復旧にあたって、生物多様性に配慮した施工を実施している。この区域では、盛土による植林地の西側に盛土を取り除いた生物多様性配慮ゾーンが設置されている。
重点地区調査（広浦）
防潮堤の海側と内陸側に砂丘植生がかなわれており、海側では本来の砂丘植生が、内陸側ではメマツヨイグサ等、荒地に見られる多種生草本を含む砂丘植生が分布している。非耕作農地は造成後、ビニールハウス群となり、植林跡地は大部分が盛土され、新たな樹林地となった。[植物]アイアシ、[鳥類]ノビタキ、[昆虫類]マダラヤンマ、ヤマトマダラバッタ、[その他無脊椎動物]アリアケモドキ等の希少な動植物が確認された。
Includes material (c) (2014) Blackbridge AG. All rights reserved.
凡例 ※2015年段階の情報を元に作成しています。
津波浸水域（国土交通省による推定）
重点エリア拡大図範囲
■海域
① 藻場
大型褐藻類藻場(2012-2013)
モニタリングサイト1000（藻場）
生態系監視調査
② アマモ場
アマモ場(2012-2013)
モニタリングサイト1000（アマモ場）
生態系監視調査
③ 干潟
干潟(2014-2015)
モニタリングサイト1000（干潟）
生態系監視調査
有識者による情報
■陸域
④ 砂丘（砂浜）
砂丘（砂浜）
砂丘（砂丘植生）
⑤ 海岸断崖地の自然植生
海岸断崖地の自然植生
⑥ 残存樹林地
残存樹林地（自然林）
残存樹林地（二次林）
残存樹林地（植林等）
⑦ 樹林地(モミジ)状の多種な植生集団
樹林地(モミジ)状の多種な植生集団
⑧ 湿生草原
湿生草原（淡水性）
湿生草原（塩性）
⑨ 二次草原
二次草原
⑩ 非耕作農地（水田雑草群落）
非耕作農地（水田雑草群落）
⑪ 河川・湖沼等開放水域
河川・湖沼
■その他重要な自然を補足する情報
★ レッドリスト掲載種の生育地（植物）
★ レッドリスト掲載種の生息地（動物）
※それぞれの種名については本図に記載しています
特定植物群落（第5回基礎調査）
※津波未実施箇所のみ
日本の白砂青松百選
日本の渚百選
日本の音風景百選
日本のかおり風景百選
日本の快水浴場百選
未来に残したい漁業遺産の歴史文化財産百選
ガンの生息（モニタリングサイト1000（ガン・カモ類）、ガンカモ類の生息調査）
シギ・チドリ類（モニタリングサイト1000（シギ・チドリ類））
海鳥（モニタリングサイト1000（海鳥）、生態系監視調査（海鳥））
社寺位置
ジオサイト（三陸ジオパーク）
みちのく潮風トレイル
重点地区調査ベントトランセクト
重点地区調査地点
保全について議論されている区域
保全対策区域
保護区
■法規制
区画漁業権
共同漁業権
国立公園
国定公園
鳥獣保護区

平成 28 年 3 月発行　環境省自然環境局生物多様性センター
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 20 万を複製したものである。（承認番号　平 27 情複、 第 1348 号）」

環境省 自然環境局
生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

重要自然マップ 2015

福島沿岸


19
20
21
22
23
24
25
0 5 10 km
19 新地
水神沼
2014年のガン・カモ類生息調査では、水神沼や磯浜海岸でオオガカモやスズガモが確認された。
三滝川
磯の水神スダジイ林（特定植物群落）
津波の被害はなかった。
磯の水神沼・湿沢植物群落（特定植物群落）
ミズキオノバコ等の希少な水草が生育する。
仙台湾沿岸の海岸林と仙台湾沿岸の砂浜植物群落（特定植物群落）は、共に津波により甚大な被害を受け、多くが倒伏、流出した。
仙台湾沿岸の砂浜植物群落（特定植物群落）は津波による砂浜の浸食により、面積が大きく減少した。震災後には、防潮堤工事の影響によって残存個体の一部が消失した。
磯浜海岸
福島県磯海浜のクロマツ、ハイネズ群落（特定植物群落）は震災の影響を受け、著しく群落構成は変化していた。
非耕作農地やクロミミドリ川の大群落が磯岡に分布する。ヒメハリイ、エゾウキヤガラ、イガガヤフリ等の湿生植物も多くの個体が確認された。自然復移が進んでいる箇所もあり、震災後はアキノミチヤナギ、アズマツメクサ、ヒメコウガイゼキショウ等の希少種が生育していたが、現在は確認が困難となっている。
坪浜地区
坪浜防災緑地が県事業により計画されている。
坪浜防災緑地内の塩生湿地復元予定地
新地町の坪浜地区において、防災緑地内に福島県相双建設事務所による塩生湿地（0.8haX2か所）の復元や自然観察池（0.5ha）の創出が予定されている。復元予定地では、アキノミチヤナギやエゾウキヤガラ等の希少種が生育している。また、南側の釣師地区は新地町により防災緑地の整備が予定されている。
釣師地区
釣師防災緑地が町事業により計画されている。
砂子田川
大舞浜地区
大舞浜沿岸部の藻場から砂浜、砂丘植生、残存樹林等へと海域から陸域のつながりがある場所。地域では、元来地の水田に湿地や非耕作農地、残存樹林、開放水域等がまとまり、モザイク状の多種な環境がみられる。湿地では、カワツルモやウミミドリなど汽水性の水草や湿生植物が確認されている。
アラメ等が生育する藻場
Includes material (c) (2014) Blackbridge AG. All rights reserved.
20 松川浦
鵜の尾
開口部に位置する残存樹林、砂浜、干潟、藻場等のまとまり
アマモの回復が著しい
まとまったヨシ原（回復傾向）
みちのく潮風トレイルの接続箇所
小泉川
宇多川
アマモ場の回復・拡大傾向が顕著であり、北部区域では2015年には、アサリ漁業権海域であるはアマモ場が著しく回復している。アマモ場の被度は北部から南部にかけて低くなり、梅川河口付近ではアマモ場の分布はみられない。
保全について議論されている区域
宇多川・小泉川の開口部の河口近くの農地等は、塩生湿地や干潟となり、ハマサジやハママツ等の希少な塩生植物や、希少種のアカテガニの生息が確認されている。上流側の非耕作農地は、シバナやタチドジョウツナギ等の塩生植物の群落、砂浜植物のハマナス、ミクリ等の湿水性の湿生植物等がみられ、多種な植物の生育環境になっているほか、底生動物の良好な生息場所でもあり、現状の王全保存されることが期待されている。
林野庁による干潟・塩性湿地の保護区
松川浦
仙台湾で最大の潟湖干潟であり、豊かな藻場、アマモ場、干潟が存在する。震災による影響で一時は干潟の底生動物は激減したが、現在までに干潟環境は安定してきており、225種の底生動物が確認されている。上流側ではかなり回復しているが、個体数は少ない種が多いため、生態多様性に富む干潟の回復には まだ相応の時間がかかると思われる。
希少種保全エリア
福島県が保護区に指定した干潟と塩性湿地。復旧工事等の対象からはずし、干潟や塩性湿地の植生や植物相を残すことを目的とする保存区域であり、ハママツナ等の希少種が生育する。
梅川
松川浦沿岸の保護区
福島県が湿地環境の保護を実施している。
大洲地区南の保護区
カワツルモ群落やツツイトモ群落が分布する。津波の被害により防潮堤等に形成された縦長い水域、周縁の生育地として、保存が検討されている。
湿地としてポテンシャルの高い非耕作農地のまとまり
希少な植物が生育する塩性湿地
モニタリングサイト 1000（干潟、シギ・チドリ類）
2015年のカン・カモやシギ・チドリの調査では、コブハクチョウや12種のガン・カモ類、2014年に9種のシギ・チドリ類の生息が確認された。2013年にはマツカニラカワザンショウをはじめとするカワザンショウ類やフトヘナタリ等の絶滅危惧種を含む干潟の生態が確認されている。
重点地区調査
[植物] ハマボウフウ、アイアシ、エゾウキヤガラ、[鳥類]ミサゴ、スズメ、セッカ、オオヨシキリ、[鳥類]ミナミメダカ、[昆虫類]コガムシ、[その他無脊椎動物]マルタニシ等の16種の希少な動植物の生息・生育が確認された。
Includes material (c) (2014) Blackbridge AG. All rights reserved.
21 鹿島
八沢浦
100年前は水域であった、湿地としてポテンシャルの高い非耕作農地のまとまり、明治～昭和にかけて干拓された水田地帯であり、津波により一帯の水田は冠水した。
ガン・カモ類の生息調査 モニタリング 1000
震災後、広大な湿地環境が維持されており、コクガン、オオハクチョウ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ等の多くのガン・カモ類が利用している。
真野川
砂浜、河川、湿地、非耕作農地がまとまり、海域から陸域へのネットワークがみられる。
震災前は砂浜がみられたが、津波により消滅された後は、砂丘植生が回復した箇所も見られたが、復旧工事のため造成され、2015年時点では砂浜はほとんどみられない。
震災前は砂丘植生が分布していたが、津波により消失し、砂浜も後退した。2015年までに砂浜や砂丘植生は消失を繰り返しており、砂丘植生は若干回復がみられ、このエリアで唯一、砂浜がまとまって残存する区域となっている。
Includes material (c) (2014) Blackbridge AG. All rights reserved.
22 前川浦・井田川浦
前川浦
小高川
前川浦
小高川の河口域に広がる砂州や湿地、水域などを含む多様性の高い環境的な立地を有する。非耕作農地では、サデクサ等の希少な植物も確認されている。
井田川浦
明治の田版地形図によれば、100年前は湿地であり、津波としてポテンシャルの高い立地に非耕作農地がまとまっている。津波後、小規模な水域が散在し、ガン・カモ類や干潟環境の水鳥に多く利用されている。
富田川
河川、湖沼から砂州、湿地、非耕作農地へと海域から陸域へのつながりがみられる。
開放水域や非耕作農地では ハクチョウ類やチュウサギ等のサギ類が、湿性草原では セッカ等の鳥類が生息する。
Includes material (c) (2014) Blackbridge AG. All rights reserved.
23 請戸川・熊川河口域
請戸川
砂浜、河川、湿地、非耕作農地がいったんビタクトのつながりがみられる。
重点地区調査
請戸川河口域は非耕作農地が広がり、河口部の砂浜や田河道が近に新たな湿地が点在する。[植物]ケコノアシ、カサモノアサモ、ミクリ、[鳥類]シロチドリ、セッカ等希少な動植物が確認された。
熊川
重点地区調査
帰還困難区域のため震災後はとんど人の手が入っておらず、非耕作農地はヤナギ等の樹林化が進行している。タヌキ、イノシシ等の哺乳類のフィールドサインが多くみられた。
[植物]ツノナデシコ、アズマミクリ、ヒオオミクリ、[鳥類]ミサゴ、オオバン等の希少な動植物が確認された。
24 夏井川河口域
重点地区調査
夏井川河口域は、長大な砂浜に、わずかであるが砂丘植生が残存している。残存した樹林では、ハママツ等の希少な植物が生育し、後背の河川・湿地には水鳥が多くみられる。
[植物]ケコノアシ、ハマボウフウ、ミズアオイ、[鳥類]オシドリ、オオタカ、ノスリ、ヒバリ、[その他無脊椎動物]マルタニシ等の希少な動植物が確認された。
四倉海水浴場
砂丘植生が残存し、ハマボウフウや ハマエンドウ等の希少な砂丘植物が生育する。
仁井田川
横川
夏井川
アユ・サケ等の遡上がみられる。
水辺ではオオハクチョウ等のガン・カモ類の利用がみられる。
希少植物が生育する海岸林とガン・カモ類等が利用する水辺のつながりがみられる。
生態系監視調査（干潟）
2015年調査時には干潟は閉塞しており、沿岸部のコブアサジの繁殖地を通じて河川域で調査した結果、クロベンケイガニ、アシハラガニ、モクズガニ等を確認した。
砂嘴予浜
砂浜では砂丘植生が残存し、ハマボウフウやハマゴウ等の砂丘植物が生育する。海岸林は、江戸時代に植林された防潮保安林で、海岸側の前縁部はクロマツ単一林、内陸側はクロマツ、ケヤキ等の広葉樹との混交林である。多種な樹種構成をもつ混交林では津波の影響が比較的少なかったため、希少な植物も樹林内に残存している。
河口部は閉塞し、キョウジョシギやツロドドリ等の水鳥の利用がみられるほか、コブアサジの営巣地も確認されている。河岸では、ミズアイオやカワアジサイ等の希少な湿生植物が確認されている。
清水川
Includes material (c) (2014) Blackbridge AG. All rights reserved.
25 鮫川河口域・五浦
ヤマトシジミやクリアケヒドキ、カクベンケイガニ（東北地方では初記録）が生息する。
鮫川
中田川
重点地区調査
鮫川河口域は、砂浜と潟湖を擁し、湿地や残存樹林、非耕作農地等の連とまり、海から陸への つながりがみられる。
[植物]アイアシ、ハマボウフウ、[鳥類]オオバン、[その他無脊椎動物] オオモモノハナガイ、サクラガイ等希少な動植物を確認した。
鮫川河口部の左岸では、高潮による砂の堆積や工事の影響により、潟湖の北側が閉化した。残存する南側の潟湖では、2015年の時点で、少数のヨシやアマモその生育や、シオクグ等の湿生植物、オオガヤやアカテガニ等希少な干潟の生物がみられた。
まとまった個体群としては東北地方で唯一のハマガニの生息地。水門改修工事の際は保全対策が実施され、2015年の時点でハマガニは再び生息していた。
特定植物群落の干潟海岸背後の植生と大津津五浦の海浜植生は共に津波による被害はみられなかった。
五浦海岸
大小の入り江や磯、断崖絶壁等がみられる海食崖で、多数の地層が見られ崖の上にはクロマツ林が成立する風景地。茨城県北ジオパークのジオサイトで、花園・花貫自立自然公園に属する。岡倉天心旧宅・記念館及び大五浦・小五浦の一部として国の登録記念物に登録されている。
Includes material (c) (2014) Blackbridge AG. All rights reserved.
凡例 ※2015年段階の情報を元に作成しています。
津波浸水域（国土交通省による推定）
重点エリア拡大図範囲
■海域
① 藻場
大型褐藻類藻場(2012-2013)
モニタリングサイト1000（藻場）
生態系監視調査
② アマモ場
アマモ場(2012-2013)
モニタリングサイト1000（アマモ場）
生態系監視調査
③ 干潟
干潟(2014-2015)
モニタリングサイト1000（干潟）
生態系監視調査
有識者による情報
■陸域
④ 砂丘（砂浜）
砂丘（砂浜）
砂丘（砂丘植生）
⑤ 海岸断崖地の自然植生
海岸断崖地の自然植生
⑥ 残存樹林地
残存樹林地（自然林）
残存樹林地（二次林）
残存樹林地（植林等）
⑦ 樹林地(モミジ)状の多種な植生集団
樹林地(モミジ)状の多種な植生集団
⑧ 湿生草原
湿生草原（淡水性）
湿生草原（塩性）
⑨ 二次草原
二次草原
⑩ 非耕作農地（水田雑草群落）
非耕作農地（水田雑草群落）
⑪ 河川・湖沼等開放水域
河川・湖沼
■その他重要な自然を補足する情報
★ レッドリスト掲載種の生育地（植物）
★ レッドリスト掲載種の生息地（動物）
※それぞれの種名については本図に記載しています
特定植物群落（第5回基礎調査）
※津波未実施箇所のみ
日本の白砂青松百選
日本の渚百選
日本の音風景百選
日本のかおり風景百選
日本の快水浴場百選
未来に残したい漁業遺産の歴史文化財産百選
ガンの生息（モニタリングサイト1000（ガン・カモ類）、ガンカモ類の生息調査）
シギ・チドリ類（モニタリングサイト1000（シギ・チドリ類））
海鳥（モニタリングサイト1000（海鳥）、生態系監視調査（海鳥））
社寺位置
ジオサイト（三陸ジオパーク）
みちのく潮風トレイル
重点地区調査ベントトランセクト
重点地区調査地点
保全について議論されている区域
保全対策区域
保護区
■法規制
区画漁業権
共同漁業権
国立公園
国定公園
鳥獣保護区